厚生労働科学研究費補助金
難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

急性帯状潜在性網膜外層症に関する調査研究

研究分担者　三重大学・医学系研究科・教授　近藤 峰生
九州大学・大学院医学研究院・教授　園田 康平
東京女子医科大学・医学部・教授　飯田 知弘
研究協力者　山形大学医学部・眼科・医学部講師　金子　優

研究要旨：AZOOR は眼底には目立った所見を示さず、急激に視力低下や視野欠損を生じる網膜疾患である。現時点では原因も不明であり、国際的にも診断ガイドラインはない。しかし AZOOR は決して稀な疾患ではなく、一般の眼科医が疾患を正しく理解し診断するためのガイドラインが必要である。現在我々はこれまでの文献や専門家の意見を参考にして、厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、診断ガイドラインを作成中である。

A．研究目的

急性帯状潜在性網膜外層症（acute zonal occult outer retinopathy, AZOOR）は、1992 年に Gass が提唱した比較的新しい疾患概念である。若年女性に好発し、光視症を伴って急激な視野欠損で発症し、網膜外層を傷害することがわかっている。しかしながら、眼底写真や蛍光眼底造影はほぼ正常な所見を示すことから視神経疾患や頭蓋内疾患との鑑別が重要である。今回の研究の目的は、厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、AZOOR を正しく診断するためのガイドラインを作成することである。

B．研究方法

厚生労働省網膜脈絡膜・視神経萎縮症調査研究班を中心として、過去の文献と専門家の意見を参考にしながら診断ガイドラインを作成する。

（倫理面への配慮）

診断基準策定と個人情報の特定されないアンケート調査であるので、倫理的問題は生じない。

C．研究結果

急性帯状潜在性網膜外層症の診療ガイドラインを発行した（成果物：資料 5)。全国の主な眼科施設に調査票を送付し、日本におけるおおよその患者数を調査する。令和元年 12 月時点で患者数調査アンケート用紙を国内の多数の病院に配布した状態である。

D.考察

診療ガイドライン作成により疫学調査が可能となり、治療法開発に向けた臨床研究や予後予測に有用な臨床情報の収集が可能になると思われる。

E．結論

この診断ガイドラインは、一般の眼科臨床医が AZOOR を正しく診断する際に役立つ情報を提供できると期待される。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

１．論文発表

⑴ 近藤峰生ら.急性帯状潜在性網膜外層症（AZOOR）の診断ガイドライン．日本眼科学会雑誌．2019，123 巻 4 号 443-449．

２．学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

なし